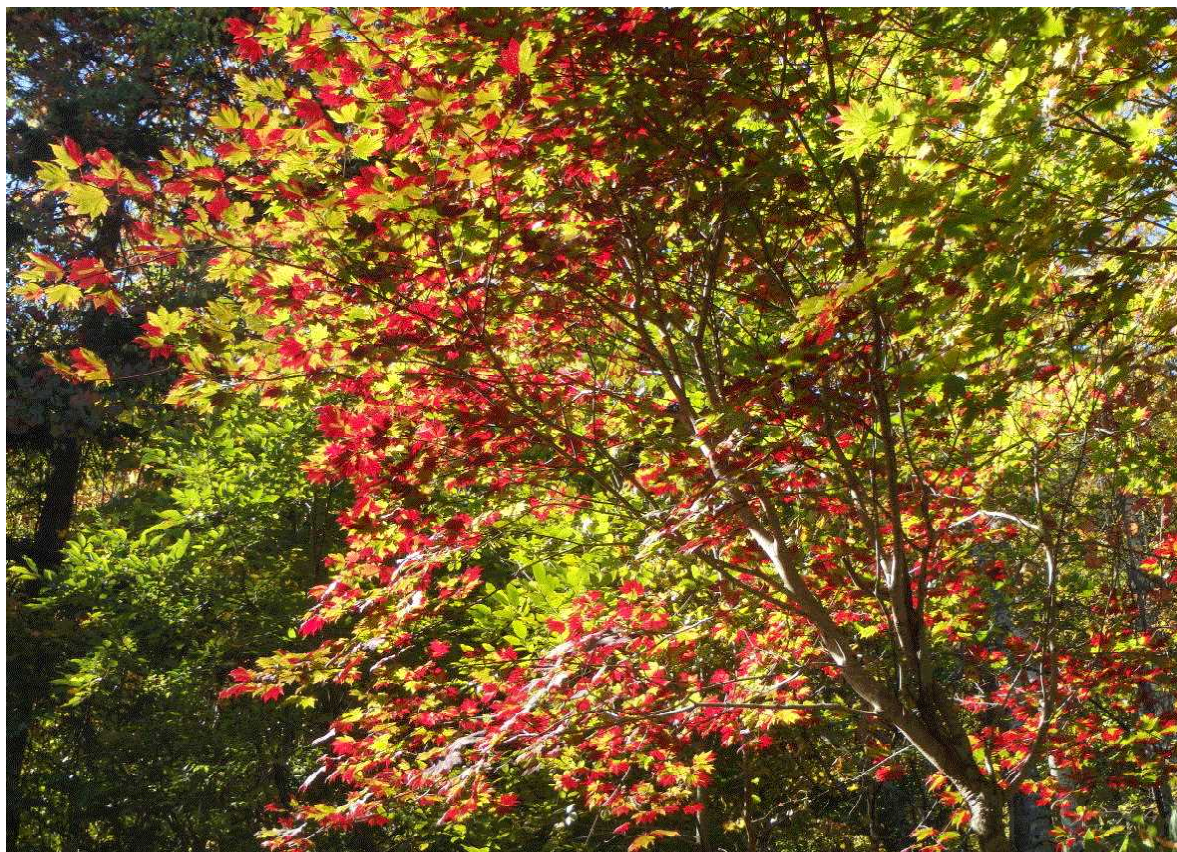


常呂川森林ふれあい推進センター

平成30年度 年 報

オホーツクの「森」から



発行に当たり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園等、自然環境に恵まれ貴重な動植物を育む地域です。

林野庁常呂川森林ふれあい推進センターは、オホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に、自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育等に取り組む企業・団体・NPO等の活動の支援、技術指導等を行っています。

この度、平成30年度の主な活動内容がまとまりましたのでご覧下さい。

目 次

森林環境教育の取組み	・・・・・・・・ 1頁
地域との連携・普及啓発等の取組み	・・・・・・・・ 3
自然再生・生物多様性保全の取組み	・・・・・・・・ 12
活動区域及び所在地	

森林環境教育の取組み

○常呂小学校自然観察会

7月13日（金）、常呂小学校3年生26人を対象とした自然観察会（ワッカネイチャースクール）をサポートしました。

これは、常呂小学校の「例年ワッカ原生花園に行っているが、花を見るだけとなり、力を貸して・・・」との要請を受け、自然を楽しむ・親しむことを目的に行ったものです。



当センターでは「森林教室・自然観察は身近な公園でも出来ます」とPRしているものの、森林どころか樹木もほとんどない原生花園、しかも、国立公園で枝・葉を採るのも禁止、いつもと勝手が違います。

プログラム作りにも苦心、自然を感じる事・観察すること・楽しむことを重視し、ネイチャーゲーム（「フィールドビンゴ」

「カメラゲーム」「サウンドマップ」）を組み込みながら3班に分かれておよそ2時間の散策です。

「サウンドマップ」（自分を中心に聞こえた音を色や線・記号などで紙に描く）では、「船の音が大きかったので太い線に」「小鳥の音がたくさん聞こえた」などの声がありました。また、「カメラゲーム」（二人ペアになり、カメラマンは目隠しをしたカメラ役を被写体に誘導、カメラ役は見た光景を絵にする）では、エゾスカシユリやエゾフウロ・ムシャリンドウなどの花をメインにした絵が完成していました。

途中、班員全員が双眼鏡で見終わるまで枝先で鳴く小鳥（たぶんオオジュリン）の助けなどもあり、楽しく散策することが出来ました。

担任の先生からは、「とっても楽しい時間をありがとうございました、来年もお願いするようしっかり引き継ぎます」というコメントをいただきました。



○端野小学校自然観察会

6月28日（木）、端野小学校5年生35人を対象にオホーツクの森で行われた自然観察会をサポートしました。

まずはアイスブレイクで子供たちの緊張をほぐし、3班に分かれてカモフラージュです。

自然界に存在しない物を探しながら、なぜ保護色を使って隠れるのか、また、木の実が赤く色鮮やかに目立つのかを説明しました。近くに白い葉が目立つマタタビがあり、それらの持つ意味を皆で話し合いました。

次に「古の森」の遊歩道を歩きながら、凍裂や倒木更新などを見て自然の仕組みについてお話。太い木が多く存在する森の中で、1種類だけでも木の名前を覚えようと歩道脇の標示板を使いながら木々の特徴について話しました。



子どもたちは、自然とふれあい楽しそうでした。

今後も学校側の要望に応えることが出来るよう、また、子どもたちが自然に触れて考えられる楽しい時間を提供したいと考えています。



○キッズ・チャレンジクラブ

7月14日（土）、オホーツクの森で、遠軽町生田原教育センター主催の「キッズチャレンジクラブ」（森林教室）を、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得る中でサポートしました。

この催しは、遠軽町生田原地域の子どもたちが、体験活動や異世代間の交流を通して、協調性や社会性を養うことを目的として行われているものです。

当日は小学1年生から中学生までの24名が参加し、森の中や川縁で自然を満喫しました。まずは「森の家」裏山の散策路に作られた5つの関門を、4班に分かれて踏破するイベントです。

じゃんけんで勝ったら渡れる橋や捜し物クイズ、トランシーバーや双眼鏡を使ってクリアしていくゲーム、そして今年初めてお目見えした蜘蛛の巣ゲームでは、上級生が下級生のことを考えながらリードして、全員が課題を見事クリアしました。

裏山から戻ってきた子供たちは、川縁にオホーツクの会の皆さんが作ったハンモックやターザンロープ、ブランコへ一目散です。

さっきまで山登りで疲れたと言っていたのが嘘のように、元気に動き回りながら遊んでいます。びしょ濡れの子も続出です。

昼食は柳の木の下にブルーシートを敷いて食べました。人懐っこい子も多く話も弾みました。

早々と食べ終えた子たちは、やはり手作り遊具の元へ。今回は都合で昼食を食べてから帰路につきましたが、今年も元気いっぱいの生田原っ子でした。

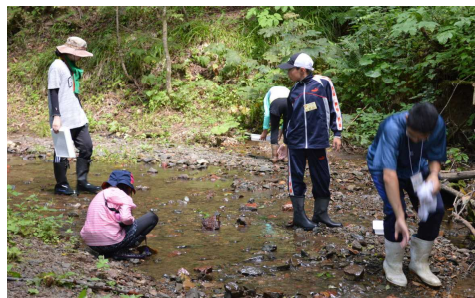


○北見市環境ウォッチング

7月31日（火）、北見市環境ウォッチングが「森の家」周辺で開催され、北見市の要請を受け、常呂川森林ふれあい推進センターと森林ボランティア「オホーツクの会」が協力しました。

これは、自分たちの住んでいる近隣の森林や川にふれあい、そこで生息する生き物に焦点をあて、身近な自然を大切にする心や行動を養っていくことを目標に行われたものです。当日は、地元小学生高学年20人に加え、北見北斗高校のサイエンスクラブもサポーターとして参加しました。

午前中は、「森の家」の裏山での森林探検で高校生にも各関門のスタッフとして活躍していただきました。



午後からは、「森の家」の裏の小川で北見市の職員とサイエンスクラブが担当して、子どもたちが採取した魚や水生昆虫などの水生生物を顕微鏡や図鑑で確認し、小川に多くの生物がいることを確認しました。

「環境ウォッチングは、自然（森林・川）に興味を持ち、その変化（地球温暖化、異常気象など）に関心を持ってもらうことが目的

です。今日の体験を通じて、そのことが皆さんの心に残ったと思います」との主催者のまとめで暑かったですが有意義な一日の行程を終えました。

地域との連携・普及啓発等の取組み

【地域と連携した取組み】



ネイパル北見（北海道立青少年体験活動支援施設）

○ネイパル体験DAY



4月29日（日）、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見の要請を受けて、「ネイパル体験DAY」に当センターから3名が支援に参加しました。

この「ネイパル体験DAY」は、大型連休に合わせて開催され、親子連れらが大勢訪れるネイパル北見の人気行事で、教育関係機関やボランティア団体等が協力・出展する催しです。

当日は他の教育関係機関やボランティア団体による風船で犬やキリンを作るバルーンアートや貝細工・ドミノ倒し等の多彩な体験が行われました。



当センターでは森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、カラマツやエゾマツ・トウヒのマツボックリと枝を使った木工クラフトや、飛ぶ種の模型（ロケットラワン）と竹とんぼを作って体育館で飛ばしました。

また、今回は新作として様々な森に落ちている材料で、自然の光景を箱庭のように作る工作にもチャレンジしました。総じて席に集まる親子たちには好評で、午前中だけでは飽き足らず、午後からもやってくる子供がいるほど盛況でした。

北海道農政事務所北見地域拠点（農林水産省）

○夏休み子ども見学デー



7月26日（木）・27日（金）、北見市立東小学校の玄関ホールを会場として、「夏休み子ども見学デー」が行われ約270名が来場しました。

この催しは、北海道農政事務所北見地域拠点と国有林（網走南部森林管理署、網走中部森林管理署、常呂川森林ふれあい推進センター）が、農林水産業への理解を深めてもらうことを目的に行ったもので、当日は、ヒンメリ作り（小麦のワラを使った立体ア

ート）やタマネギでの染色、牛の模型を使った搾乳体験、つりゲーム、農産物のパネルクイズなどが行われ、当センターは、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、竹とんぼとマツボックリのクラフト作り、丸太切り体験などを行いました。

「竹とんぼ・木工クラフトづくり」コーナーは、多くの家族連れが訪れ、作った力作に、子どもたちからは、「かわいいのが作れた、お部屋に飾りたい」「また、来て作って遊びたい」など大変好評でした。



オホーツクみどりネットワーク

○オホーツク森林フェスティバル

7月28日（土）・29日（日）、第5回「オホーツク森林フェスティバル」が行われ、約200名が会場を訪れました。

これは「オホーツク森林フェスティバル」実行委員会が、森林の魅力に触れながら、みどりを守り、みどりに親しむことを目的に行ったもので、「オホーツクみどりネットワーク」に加盟するボランティアや民間団体、関係行政機関などが様々な催しで来訪者を迎えました。

当センターでは、森林ボランティア「オホーツ



クの会」と共に、丸太切り体験と竹とんぼ及びマツボックリのクラフトなどを行いました。

屋外でのイベントですが両日とも気温が高く、特に29日は35度を超える猛暑日となり、教える方も教わる方も汗だくになりながら好評のうちに終了しました。

網走市農政課

「オホーツクの森」森林散策会

10月27日（土）、網走市主催の「オホーツクの森森林散策会」が開催され、網走市の要請を受けて活動を支援しました。

この催しは、網走市が木を身近に利用することで、木や森の存在を身近に感じ、自然とともに生きることについて学ぶ機会を増やすため、木育の一環として網走市が行っているものです。

当日は、網走市民10名の参加があり「オホーツクの森」の展望台から網走湖や能取湖・知床連山を眺望するとともに、植物や動物・土や水等が、相互に関わりを持って成り立っている様子が見られる「古の森」の遊歩道を1時間30分かけて散策し、センター職員が解説しました。

参加者からは、「森林の営みについて勉強になった」や「普段余り来れないところに来られたのと紅葉も見られ良かった」等の感想がありました。



○山の日記念藻琴山散策会

「山の日記念藻琴山散策会」は、8月25日（土）にオホーツク総合振興局東部森林室、網走南部森林管理署と共催で実施予定でしたが、台風の影響で中止になりました。

【ボランティア団体の活動支援】

森林ボランティア「オホーツクの会」

○会結成10周年記念森林散策会・記念植樹

好天に恵まれた6月17日（日）、会員19名の参加により、会結成10周年記念行事として、森林散策会・記念植樹等が行われました。

開会式では、オホーツクの会会長より会の活動のサポートに対する感謝や各会員へ「私達の取組みや仲間の輪が世代を超えて未来につながっていくことを夢見ながら一緒に会を育て、



会の活動を楽しんでいきましょう」との心温まるあいさつがありました。

その後、網走中部森林管理署長・センター所長が「オホーツクの会」の活動に対しての賞賛と更なる発展を祈念するあいさつをし、森林散策をスタートしました。

午後からは、大きく育つことを願いながら、オホーツクを代表する広葉樹「ミズナラ」を参加者全員で植え、角副会長の手作り看板を設置し、今後の活動への決意を新たにしました。



○秋の森林散策会

9月30日(日)、台風の接近予報もありましたが、幸いにも天候に恵まれ17名の参加により秋の森林散策会が行われ活動を支援しました。

この催しは、「森林とのふれあいを楽しみながら」、「森林について理解を深め」、「森林を愛する仲間の輪を広げる」ことを目的に行われ、今

回は、大型商業施設や住宅地と接する「こまば木の広場」(網走市駒場)、2012年に環境省が設置(網走市などが管理運営)した「濤沸湖水鳥・湿地センター」(網走市北浜)の2ヶ所で自然と人間の関わりを学ぶ散策会で、リスと水鳥を間近で見ることができ、また、私たちの住んでいる近くの身近なところの森や動物たちの営みを感じることができた有意義な散策会でした。



オホーツク森の案内友の会

○夏の自然観察会「オンネトー・白藤の滝」散策

7月7日(土)、「オホーツクの森の案内友の会」が主催する「夏の自然観察会」が、足寄町の「オンネトー・白藤の滝」で行われ活動を支援しました。

当日の天候は、曇りでオンネトーの湖水はそれほどブルーが映える程ではなかったですが、午前中、オンネトーの遊歩道を約1時間半かけ散策し、午後からは、足寄町観光協会も推薦する白藤の滝を見ました。

遊歩道では、手つかずの原生林があり、アカエゾマツの巨木では直径巻尺を使い樹木の太さ(胸高直径)を当てるクイズをしたり、足元にあるゴゼンタチバナ等の花やいろいろな植物を当センター職員が参加者に解説を行いました。



白藤の滝は、落差20m、幅7mの滝で、迫力ある滝を参加者は見入っていました。



この他、当センターでは次の行事へ参加して、地域と連携した取組み、ボランティア

IA団体の活動支援、技術指導を行っています。

オホーツクみどりネットワーク

5月30日（水）全体会議

森林ボランティア「オホーツクの会」

8月5日（日）木エクラフトづくり

道民森づくりネットワーク実行委員会

9月10日（日）道民森づくりの集い

網走中部森林管理署

9月20日（木）ワッカ原生花園環境整備

東部森林室（北海道オホーツク総合振興局）

10月29日（月）木育・森林環境教育意見交換会

コープ^{あした}未来の森づくり基金

1月26日（土）北海道の森づくり交流会

森林ボランティア「オホーツクの会」

3月3日（日）冬の自然観察会



全体会議



木エクラフトづくり



道民森づくりの集い



冬の自然観察会



北海道の森づくり交流会



意見交換会



ワッカ原生花園環境整備

【普及啓発の取組み】

○「緑の募金」街頭募金キャンペーン

4月23日（月）、北見芸術文化ホール前（JR北見駅南口）で「緑の募金」街頭募金キャンペーンが行われ、当センターからも参加しました。

今年は「小さな芽 大きな未来 つまってる」をスローガンに、人が生きるために様々な役割を果たしている【森の力】を未来へつなげるために、一人でも多くの人に森林を育て保全する必要性を知ってもらえるよう、北見市の「緑の募金」活動と併せて出発式が行われました。

主催者を代表して「緑と花の市民の会」の渡部会長のあいさつ、続いて来賓の辻北見市長のあいさつの後、7団体・約60名が、JR北見駅前から2条通までに分かれて募金活動を行いました。

街ゆく人に元気よく声をかけると、快く募金に応じていただける市民も多く、当



日の好天にも恵まれる中で約1時間の活動を終了しました。

○森林の魅(味)力を感じよう！

5月27日(日)、オホーツクの森にある「森の家」及び周辺で「森林の魅(味)力を感じよう！」を森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て行いました。

この催しは、平成28年から国民の祝日となった「山の日」の制定の趣旨である、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」をテーマとして実施したもので、北見市及び近隣町村から30名の参加者がありました。



最初に、山菜の魅力について食べて味わう事、採れた達成感、無料という満足感などがあるのではないかと話しをしました。その一方で守らなければならないルールもあること、例をあげると『たくさん採りたい(物欲)』、『他の人に知られたくない(独占欲)』、などを捨て去ることが大切。「自分で食べる分だけを丁寧に採取することで調理も楽であり、新鮮な山菜はアクも少なくおいしく食べられる」との話をしました。

その後、「森の家」の周辺でタンポポ、ニリンソウ、ヨブスマソウ、セリなどの食べられるもの、クサノオウ、バイケイソウ、エゾノレイジンソウ(トリカブトの仲間)などの食べられないもの(毒草)を学びながら試食用の山菜を採りました。



試食タイムでは、採りたてのウド・ミツバ・ニリンソウ・ヨブスマソウ・クサソテツなどを塩入りのお湯でシャブシャブし、マヨネーズや味噌などのタレで「山菜シャブシャブ」を堪能しました。

「普段は何も気にせずに歩いていたところに、こんな美味しい山野草があるなんて驚きであり、新鮮な感じがする」という声がありました。

また、「ヨブスマソウは、初めて食べたけど食感が最高！」や「ニリンソウは癖がなくとても美味しい」「家に帰っても作ってみたい」などの声も聞こえました。

午後からの森林散策(山菜採取)は、青空も広がり気温も少し上がる中で無事に終了しました。

参加者からは「自分では中々採せないけど教えてもらったらこんなに採れた」と手元にお土産の山菜がしっかりと握られていました。

○森林へおいでよ！パネル展

9月29日(土)～10月8日(月・祝)、北見市「緑のセンター」で、森林ボランティア「オホーツクの会」の共催により、「森へおいでよ！パネル展」を実施し、多くの来館者がありました。



当センターと「オホーツクの会」が、それぞれの活動の紹介や「オホーツクの森」に生きる動物たちや草花のパネルを展示するとともに、「オホーツクの会」の会員が作ったクラフト作品も展示し「オホーツクの森」をPRしました。



また、10月6日～8日には、竹とんぼや枝笛作り、マツボックリ等を使った木工クラフト、緑ヶ丘公園の散策会等を行い、森林の役割やすばらしさをPRしました。

クラフト体験では「森にあるもので、こんなに楽しめるんですね」「かわいいクマができました！良かったです」また、竹とんぼでは、「こんなに飛ぶんですね、おもしろいビックリです」等の感想がありました。

参加者の皆さんに、秋の一日を思い思いに楽しんでいただけたのではと思います。



○第2回森林づくり塾

10月20日(土)、14名の参加により「第2回森林づくり塾」が行われ、佐藤製材工場(斜里町中斜里)、海岸防災林(小清水町止別・国有林)を見学しました。

午前中は、会社の概要説明と質疑応答の後、製材工場を見学しました。最新の工場ということで工務店や大工さんからの注文に合わせて木材を採材し製品にするプレカット工法などを見て、参加者の皆さんは、「昔の製材工場と違ってすごい進歩していますね」など感心していました。



午後からは、オホーツク海の高潮や塩分を含んだ潮風などから住宅や農地などが受ける被害を低減させる、「海岸防災林」を見学し、戦前から今までの造成の歴史や現在の状況を見て、参加者は



「先人がご苦労されて立派な森になったのですね」とか「森と海と知床連山の景色がすばらしい、今度友人に紹介したい」など満足されていました。



【広報活動】

当センターでは、イベントの案内や「オホーツクの森」の自然情報等をホームページに掲載してきました。

一層の情報提供の充実を図るため、広報誌「森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク」を発行しています。

このタイトルには、「森のことを盛りだくさんに伝えたい」という思いとその決意が込められております。

そして、オホーツクの地域が、読んでくれた人々が、元気モリモリになっていただければ、との思いも込め作成に励んでいます。

今年度はNo25～No30を発行し、当センターの活動をPRしましたので、是非、ご覧下さい。よろしくお祈りします。

「森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク」

http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/morimori.html

平成 30 年 11 月 7 日 No30

森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク
林野庁 北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター

第2回森林づくり塾
～地元製材工場と海岸防災林見学しました～

10月20日(土)、14名の参加により「第2回森林づくり塾」が行われ、佐藤製材工場(斜里町中斜里)、海岸防災林(小清水町止別・国有林)を見学しました。午前中は、会社の概要説明と質疑応答の後、製材工場を見学しました。最新の工場ということで工務店や大工さんからの注文に合わせて木材を採材し製品にするプレカット工法などを見て、参加者の皆さんは、「昔の製材工場と違ってすごい進歩していますね。」など感心していました。

午後からは、オホーツク海の高潮や塩分を含んだ潮風などから住宅や農地などが変わる被害を低減させる、「海岸防災林」を見学し、戦前から今までの造成の歴史や現在の状況を見て、参加者は「先人がご苦労されて立派な森になったんですね。」とか「森と海と知床連山の景色がすばらしい。今度友人に紹介したい。」など満足されていました。

海岸防災林から知床連山を望む

【関係団体からの要請に応えての取組】

○北海道森林ボランティア協会研修旅行(講師派遣)

9月17日(月・祝)、NPO法人北海道森林ボランティア協会(札幌)が今後の活動に活かす目的の研修旅行(知床・阿寒他)の一環として17名がオホーツクの森を訪れ、当センターから2名が案内・協力しました。

まず、はじめに、隠れた名スポット「オホーツクの森」展望台の眺望を案内しました。

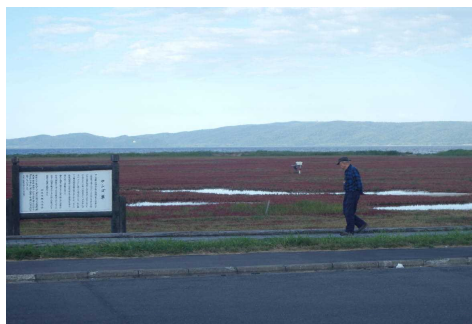


この日は、残念ながら知床連山はよく見えませんが、天候も良くその他の風景は絶景でした。参加者からは、「いい景色ですね。網走市も見えますね」とか「能取湖や網走湖がよく見えて感動した」など感想をいただきました。

次に、「オホーツクの森」の「古の森」遊歩道を案内しました。バスを止めた駐車場近辺は大正時代に山火

事があり、その再生林で白樺が多く更新し大きくなっていることから「しらかば十字園」と呼ばれており、その廻りにはハルニレの「林木遺伝資源保存林」として保護されてきた森林が広がります。

この遊歩道で、森林散策を行い原生林を思わせる巨樹・巨木や動植物の話をしなが道東、オホーツクの森林についての理解を深めていただきました。その後、卯原内ダム、アッケシソウ(サンゴ草)群生地まで案内し日程を終えました。



○卯原内川源流部見学（北見北斗高校サイエンスクラブ）

10月13日(土)、北見北斗高校サイエンスクラブの生徒8名と先生2名がオホーツクの森を訪れました。

今回の訪問は、夏に北見市主催の「環境ウオッチング」の手伝いに来ていた生徒の「川の源流部を見たい」という声にセンターが応える形で行ったものです。



まずはじめは、秋と言えば食欲の秋・収穫の秋ということでコクワの実を味わっていただきました。生徒さんたちは、最初は「これ食べれるんですか?」、「何か毛みたいのが実についている。大丈夫ですか?」と心配していましたが「大丈夫だよ甘くておいしいよ」と声をかけると一斉に食し、一同「キウイみたいおいしい!」と喜んでくれました。次に「オホーツクの森」展望台に案内しました。



この日は、天候も良く知床連山も一部見え、生徒からは、「いい景色ですね」とか「能取湖や網走湖がよく見える、地元でこういういいところがあったんだ」など感想をいただきました。

次は、いよいよ卯原内川の源流部がある「古の森」遊歩道の散策です。サイエンスクラブの方ということもあり、「朽ちた老齢木も貴重な動物のすみかになるんだよ」など解説すると非常に興味を持ってくれ、動植物や樹木の解説にもよく耳を傾けてくれました。



川の源流部では「このあたりから水が地中深く通ってきれいになってしみ出しています。この小さな小川が集まってやがて大きな川になります」など解説する



と「こういった森を大切にしないといけないですね。」などの感想がありました。

自然再生・生物多様性保全の取組み

○自然再生モデル事業企画運営協議会

3月19日（火）、「オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会」を北見事務所会議室で開催し、今年度の活動結果、次年度の活動予定等について検討しました。

今回は、平成29年度の実施で終了した「ボランティア育樹」の替わりとして、「樹木博士」の環境整備を進めていることや育樹に参加されていた地元小学校への森林環境教育プログラムの提供・実施等について報告しました。また、委員から「協議会メンバーが一同に会して活動する機会について設けて欲しい」という要望があったことから検討していくこととなりました。



○オホーツクの^{もり}森林づくり

7月8日（日）、オホーツクの森で、北見市及び近隣から17名の参加により、森林ボランティア「オホーツクの会」の共催、「オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会」の後援で「オホーツクの森森林づくり」を行いました。

この催しは、多様な森林づくりとして針広混交林を目指し、約10年前から森林ボランティア・企業・高校や大学等の皆さんがこれまでに植栽した広葉樹の手入れを通じて、その生長を確認していただき、森林の働きや公益的機能などの理解を深めるために行っているものです。

午前中は、植栽木がササに覆われないように刈出しなどを行うとともに、植栽木の生長に影響を与える枝や倒木を処理していただきました。

参加者の皆さんは、額に汗しながら熱心に作業をされていました。「この作業で植栽した木が大きくなってくれば」、「どれくらい大きくなるか楽しみです」などの声がありました。



午後からは、「ワッカ原生花園」を訪れ、季節の草花を觀賞し、労をねぎらいました。

オレンジ色（橙色）のきれいな「エゾスカシユリ」、ピンク色のかわいらしい「エゾフウロ」などが見られ、参加者からは「きれいな花が見れて疲れがとれる感じですよ」とか「余り来れないとこなので非常に良かった」という声がありました。

○第1回森林づくり塾

6月24日（日）、北見市端野町の国有林「オホーツクの森」で北見市及び近隣町村から14名の参加により今年度1回目の「森林づくり塾」を行いました。

この催しは、100年前の森林（広葉樹と針葉樹が適度に混じった、色々な木や草の種類がいっぱいある森林）を作るために、ボランティアの手を借りながら森林づくりを行なったもので目的としては、ボランティアの輪を広げること



す。

今回は、10年前から植えられた木々の状態を4班に分かれて調査しました。

どこにあるのか探すのに苦労するぐらい小さな物もあれば、3m以上に成長している物もあり、「10年間でこんなに差が出るなんて」と驚きの声もありました。

自然の厳しさを改めて感じる光景を目にすることが出来ました。また、草刈りの支障になる枝等の除去も並行して行いました。

当日は蒸し暑く、みんな「暑い、暑い」と滝のような汗を流しながらの作業となりました。それでも、「こんな作業ならいつでもやるよ」「けっこう楽しいよ」と心強い意見もいただきました。

昼食後は森林散策を行うために訓子府レクリエーション公園へ向かいました。しかし、目的地が近づくにつれて雨が降り出し、公園の近辺では車窓から外が見えないぐらいの強烈な雨になりました。仕方なく予定していたコースは諦めて、展望台まで車で上がって見晴らしの良い風景を眺めてから、森林の入り口付近を少しだけ楽しんで、すべての日程を終え帰路につきました。



【野生生物自動撮影調査】

当センターでは、平成20年8月から「北海道野生生物観測ネットワーク」に参加し、国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所から技術支援を受けて、「自動撮影装置による中大型ほ乳類の調査」を実施しています。

この調査は、撮影頻度という量的なデータに基づいて、中大型ほ乳類の生息動向を探る試みで、赤外線感知装置付きのデジタル式自動撮影カメラを道路沿いに設置し、野生生物が装置の前を通ると24時間、自動的に撮影されます。

当センターでは「オホーツクの森」で、撮影・データ収集を行っており、処理したデータは森林総合研究所北海道支所へ提供し共有しています。

今年度は、7月2日～23日（21日間）、8月7日～16日（10日間）、9月5日～18日（11日間）及び10月4日～24日（21日間）の4回実施し、撮影された野生生物は、エゾシカ62回、キタキツネ217回、エゾタヌキ198回、クロテン3回となっており、キタキツネとエゾタヌキの撮影頻度が高くなっています。

また、エゾリス17回、コウモリ類3回、ネコ1回、キジバト5回、ヤマシギ3回、エゾライチョウ1回、カケス1回、が撮影されており、合せて511回撮影されました。

当該調査地では、アライグマ等の生態系に影響を及ぼす野生生物は撮影されていませんが、今後も森林総合研究所北海道支所から技術支援を受けながら調査を継続し、森林の変化や野生生物の生息動向を注視していきたいと考えています。

なお、「北海道野生生物観測ネットワーク」のホームページでは、道内各地の観測結果を見ることができます。<http://cse.ffpri.affrc.go.jp/hiroh/wildlife-monitoring/index.html>



クロテン H30.7 (P2)



コウモリ H30.8 (P1)



ヤマシギ H30.9 (P4)



エゾリス H30.10 (P6)

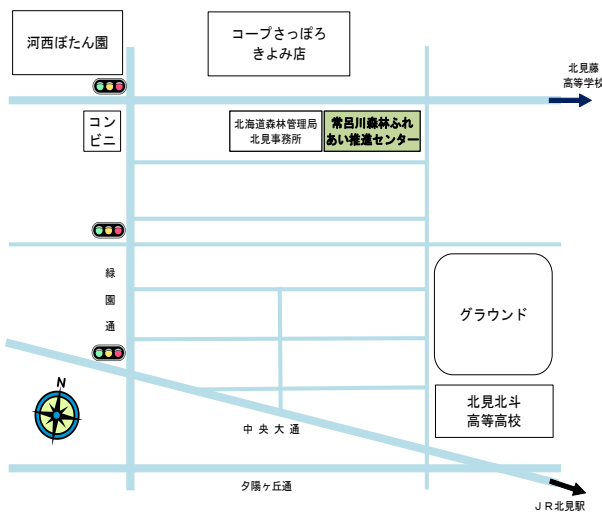


キタキツネ H30.10 (P3)



エゾタヌキ H30.10 (P4)

活動区域及び所在地



JR 北見駅から

北海道北見バス「緑が丘線」に乗車し、「消防署前」で下車。徒歩約3分
 または、北海道北見バス「美山線」に乗車し、「清見中央」で下車。徒歩約5分



お車でお越しの方

※網走方面から

国道39号をJR北見駅前で右折し直進。NHK北見放送局手前を右折し、北見北斗高校右横を進み、コープさっぽろ「きよみ店」の向かい

※旭川方面から

国道39号を栄町3丁目交差点で緑園通へ左折し直進。花月町6丁目交差点を右折し、コープさっぽろ「きよみ店」の向かい



林野庁 北海道森林管理局

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

常呂川森林ふれあい推進センター

〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11の3

【TEL】0157-23-2960 【FAX】0157-26-2144

http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/index.html

<メールアドレス> h_tokoro_f@maff.go.jp

